

キャリアパスセミナーの報告書

2019年3月18日

報告者：京都薬科大学臨床薬学教育研究センター講師
がんプロプログラムコーディネーター 本橋秀之

日時：2019年2月10日（日）13：30～16：05

場所：京都薬科大学愛学館2階愛学ホール（A21講義室）

主催：文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

参加者数：53名

本学：47名（学部生32名、大学院生6名、教職員9名）

本学以外6名（病院3名、薬局3名）

概略：本キャリアパスセミナーは文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの主催で、大学院生および学部学生を対象として大学院進学や学位取得への啓発活動の一環として行われた。

内容：

まず開会の挨拶で、本学後藤学長が現在の薬学・薬剤師が置かれている社会的状況にふれ、本日のセミナーが学生にとって有意義なものになるよう期待すると発言があった。

一演題目は神戸大学医学部附属病院臨床研究センター研究管理部門の鳥口尚子先生から「研究と博士号と私」と題した講演があった。講演ではご自身が修士課程修了後に病院薬剤師を志した理由と薬剤師として感じたこと、その後、科学的・研究的思考や深い知識の必要性から大学へ戻り学位取得への決意に至った経緯を話された。また学位取得後に治験業務に関わった経験や米国滞在中に従事した治験業務についても話された。

二演題目は神戸大学医学部附属病院薬剤部の矢野育子教授から、まず修士課程修了後、京都大学医学部附属病院薬剤部での業務から学位取得につながった研究に触れながら Pharmacometrics 研究について紹介された。続いて教員として進められた臨床研究を紹介されながら、留学時代の経験や研究内容についてお話になった。これらの中では如何に医師と協力して研究を進めてきたかについても紹介された。最後に現在進められている研究に触れながら、なぜ薬剤師には研究が必要かについてお話になった。

講演後、同会場において演者2名の先生と参加者とのパネルディスカッションをおこなった。フロアからはこれからの将来設計に向けCRC業務についてや渡米における注意点などについて質問が出された。また今後のキャリアを考える上で注意する点など率直な疑問が呈された。演者の先生からは暖かくそれぞれの質問に真剣にお答えいただいた。

最後は本橋講師の閉会の辞でセミナーは終了した。



後藤 正直 学長



鳥口 尚子 先生



矢野 育子 先生



パネルディスカッション風景

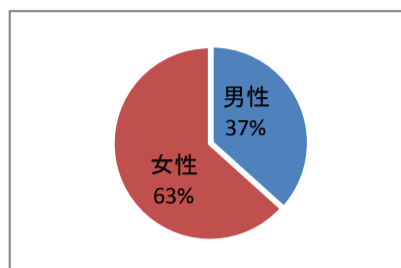
「キャリアパスセミナー」アンケート集計結果

日時: 2019年 2月 10日 (日) 13:30~16:05
 会場: 京都薬科大学 愛学館 A21講義室
 参加人数: 53名 (本学: 47名(学部生32名、大学院生6名、教職員9名))
 (本学以外: 6名(病院3名、薬局3名))
 アンケート回答: 30名 (回答率57%)

1. 聴講された方について

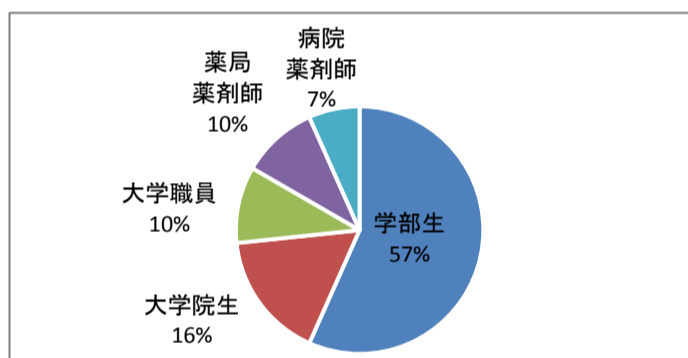
①性別をお知らせください。

	男性	女性	計
人数	11	19	30
%	37%	63%	100%



②職業をお知らせください。

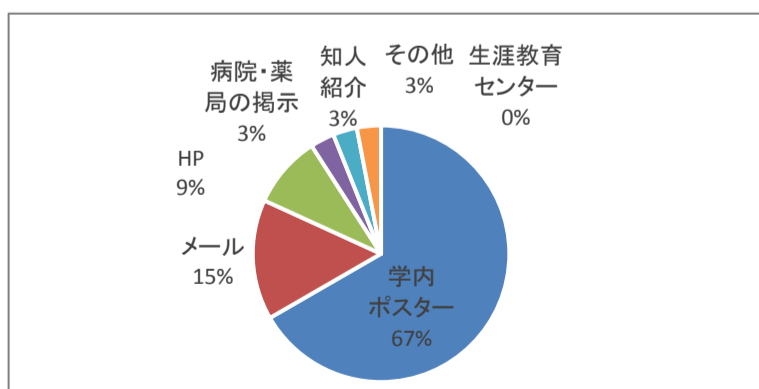
	学部生	大学院生	大学職員	薬局 薬剤師	病院 薬剤師	その他	計
人数	17	5	3	3	2	0	30
%	57%	17%	10%	10%	7%	0%	100%



2. 本セミナーの開催は、何でお知りになりましたか。

	学内 ポスター	メール	HP	病院・薬 局の掲示	知人紹介	その他	生涯教育 センター	計
人数	22	5	3	1	1	1	0	33
%	67%	15%	9%	3%	3%	3%	0%	100%

(複数回答あり)

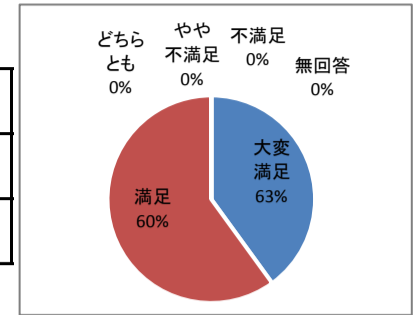


その他	人数
先生から	1

3.プログラムについて

①今回のプログラムの内容はいかがでしたか。

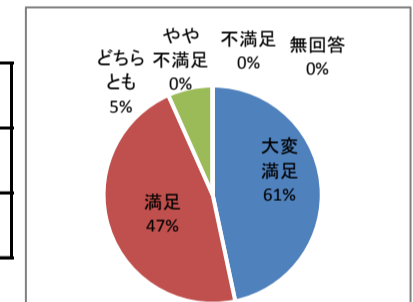
	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	12	18	0	0	0	0	30
%	40%	60%	0%	0%	0%	0%	100%



理由	評価	性	職業	回答No.
学部学生や大学院生にロールモデルを見せられたと思う。	満足	女	大学職員	5
日々の業務の改善の視点になるような知見と指針が得られました。(現場の後進の教育も含めて)	満足	女	薬局 薬剤師	6
博士課程について全く詳しくなかったの、とても勉強になりました。	満足	女	学部生	9
臨床現場でどんな事が起こっているかを知ることができた。また、論文を書くつまり研究することが、臨床現場に働くことにつながるがよく分かりました。	満足	男	学部生	10
大学院に行くメリットやその後の展望がイメージしにくかったのですが、今日の講演でまとまったように感じます。	満足	男	学部生	12
院への進学を考える身として、非常に参考になりました。	満足	男	学部生	16
研究の必要性がよく分かりました。	満足	女	学部生	18
どのような薬剤師になりたいかと深く考えさせて頂いた。	大変満足	女	学部生	21
パネルディスカッションで、講演に加え、より深くききたいことを質問できる時間がもうけられていて、良かったです。	大変満足	女	学部生	24

②プログラムの構成はいかがでしたか。

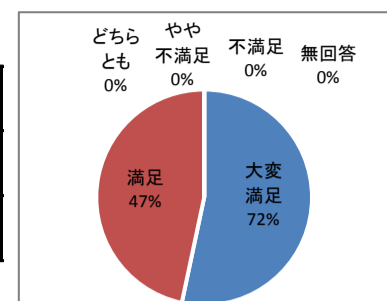
	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	14	14	2	0	0	0	30
%	47%	47%	7%	0%	0%	0%	100%



理由	評価	性	職業	回答No.
2種類だけだったので良かった。2種類の内容が重複してなかったの良かった。	満足	女	薬局 薬剤師	4
女子学生が多いので(本学でも)、女性研究者の講演者に来ていただけたのがよかった。	満足	女	大学職員	5
最後に質問する時間が充分にあり良かったです。	大変満足	女	学部生	9
時間が延びた。	どちらとも	男	学部生	10
薬物動態についての知識が乏しいため、理解し難い時間帯が多少ありました。	どちらとも	男	学部生	16

4.講師・演者はいかがでしたか。

	大変満足	満足	どちらとも	やや不満足	不満足	無回答	計
人数	16	14	0	0	0	0	30
%	53%	47%	0%	0%	0%	0%	100%

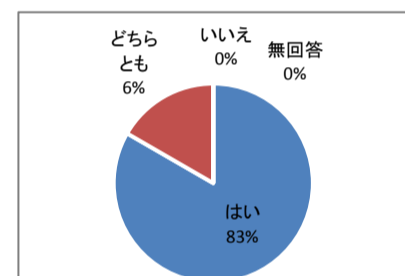


理由	評価	性	職業	回答No.
実際の経歴の紹介の内容もあり、話の進め方も分かりやすかった。	満足	女	薬局 薬剤師	4
3-②と同じ	満足	女	大学職員	5
研究が臨床にどのように役立つのか、また、臨床で得た経験が研究にどのように役立つのか話していただき、将来を考えるのにとっても参考になりました。	大変満足	女	学部生	9
発表している姿が生き生きとしていて楽しそうでした。好きな事を仕事にできるこのような方々が今の時を引っ張っているのだなあと思いました。	満足	男	学部生	10
お二方も米国で留学または勤務をされていましたが、研究者にとっての海外留学の意義や必要性についてさらにお話を伺いたかったです。	満足	男	学部生	16
実習先でお世話になった先生であり、実習中に聞くことのできなかつたお話がきけた。	大変満足	女	学部生	21
学生だけでなく、病院薬剤師の自分に対しても、今後のビジョンを考えるととても良い機会になりました。	大変満足	女	病院 薬剤師	27

5.その他

①このようなセミナーがあれば、また受講したいですか。

	はい	どちらとも	いいえ	無回答	計
人数	25	5	0	0	30
%	83%	17%	0%	0%	100%



②他に「がんに関する内容」で聴講してみたい内容がありましたらご記入ください。

聴講してみたい内容	次回 受講希望	性	職業	回答No.
レジメン、副作用関連のこと。	どちらとも	女	薬局 薬剤師	4
国が注目しているがんの研究。	はい	男	学部生	10
抗がん剤治療における基礎研究など	はい	男	学部生	16

③本セミナーを聴講されてお気づきの点がありましたら、自由にご記入ください。

お気づきの点	次回 受講希望	性	職業	回答No.
良かったのだけれど…。少し求めていたような内容ではなかったです。「研究は優れた成果だけを求めるのではない！」という言葉には感動しました。	どちらとも	男	薬局 薬剤師	3
聴講している学生が、卒業後博士に進むべきか、臨床に進んでから博士に進むべきか悩んでられたので、両方の講演もしくはパネルディスカッションがあると、学生に良かったのではないかと。	どちらとも	女	薬局 薬剤師	4
基礎科学(薬学部の特徴)を学ぶことと臨床をどのようにつなげられるかが大事だと思いました。	はい	女	大学職員	5
貴重な講義なのに参加人数が少なく残念です。もっと参加しにくるような工夫があるとよいのかもしれない。	はい	男	学部生	10
配布資料(スライドを印刷したものなど)がもう少しあった方が、よりセミナーを理解できるのではないかと思います。	はい	男	学部生	16